

vol.6

ちえから
大津の暮らしのなかにある
「check it out (注目!・見逃さないで)」なヒト・モノ・コトを
発信する情報誌



<TOPICS>

- 1.生きづらさを抱える人の伴走を考える会
- 2.Mama, Be Ambitious 母親向け市民活動体験講座
・インターンが始まりました
- 3.図書案内
- 4.食育・食べてHUGくむ おうちごはん!

ママ企画の「ママと一緒にまちあるき」では
《まちかどプロジェクト》さんと一緒に商店街
を散策。車椅子やこどもの視線を体感できる
チャイルドビジョンで発見がいっぱい!

特集：食育・食べてHUGくむほっこりごはん

食の子ども博士体験◆遺伝子組み換えルーレット上映会◆日本茶のお話と体験
食育出店ブース：非遺伝子組み換え牛乳の試飲・放射能測定・フェアトレード

生きづらさを抱える人の伴走を考える会

～子どもの虐待について発信される今一生さんをお迎えして～

10/8
(日)
12:00～
16:00

親から虐待された当事者から「親への手紙」を公募し、100人分を1冊にまとめた「日本一
醜い親への手紙」を出版した今一生さんの講演会+朗読会を行います。講演会の後は交流ス
ペースで生きづらさを抱える方の伴走者を増やすためのトークセッションを開催。市民活動
団体やNPO団体の皆さんにもお越しいただき、虐待問題を解決できる仕組みを考えます。

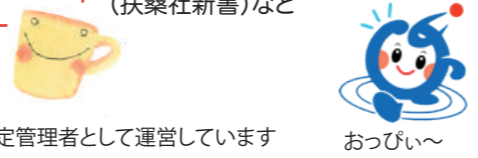


今一生氏プロフィール
1965年生。早稲田大学第一文学部除籍。フリーライター、編集者。1997年、親から虐待された人
たちから公募した手紙集『日本一醜い親への手紙』3部作、その他『社会起業家に学べ!』(アスキー
新書)、『親より稼ぐネオニート/「脱・雇用」時代の若者たち』(扶桑社新書)など

日時:2017年10月8日(日)
12:00～14:00(講演会)14:00～16:00(トークセッション)
場所:明日都浜大津2階 介護予防室
参加費:中学生以下無料、学生500円、大人1500円
定員:40名(申し込み優先、先着順)
申込先:大津市市民活動センター(077-527-8661)
協力:ユニゾンカウンセラー協会滋賀地域
後援:大津市社会福祉協議会
*今一生さんの著作をもってきてくださればサインもさせていただきます。
本の販売もあります。

大津市市民活動センター運営支援会 会員募集中!! (通称:市民活動センターファンクラブ)
市民活動センターでは、市民、市民団体、事業者、大学、行政等がよりよいまちをつかっていく取組を支援しています。
◎会員特典:メルマガ/交流スペースにてオーガニックコーヒー(1杯100円)が楽しめます。

発行:大津市市民活動センター
〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階
TEL:077-527-8661 FAX:077-527-8662
HP:http://movementotsu.com/ *平成28年度より特定非営利活動法人HCCグループが指定管理者として運営しています



今年度からスタートした、ママの市民活動体験講座。6月から半年間の予定で、折り返しを過ぎました。現在「キックオフ」「遠足」のステップが終わり、子連れ参加可能な「インターン」を実施中です。お子さんと一緒にお出掛けできて、新たな出会いと学びの発見がある、と大変好評です。また、受入れ団体さんからは日頃の活動を知ってもらう機会や新たな出会いの場と感じて頂いているようです。12月には終了交流会を予定しています。ご興味をお持ちくださった方は、ぜひセンターまでお問合せください!

【インターンの様子・ご紹介】

★在日コリアン高齢者の集い・ホス(湖)の会さん



毎月最終日曜、場所は京阪錦駅近くの膳所ふれあいセンター。朝9時半頃より徐々に台所にオモニ(お母さん)たちが集まり、一緒に昼食を作ります。この日のメニューはチヂミ、チャプチェ、ネングツ(冷たいスープ)、ブリの照り焼き、キムチ、ごはん。チヂミを上手に焼くにはコツが要って、オモニたちがかわるがわるアドバイスをくれました。午後は夏野菜をモチーフに絵手紙の時間。目の前の野菜を楽しく描き、半日を一緒に過ごしながら、韓国や朝鮮の話、韓国語、色々教えていただきました。

★比良里山クラブさん



8月24日、ジュースの原料となる赤紫蘇の今季最後の収穫でした。子どもたちと一緒に紫蘇畑での収穫を見学させていただき、刈り取った紫蘇を手摘みでカゴの中へ。お昼頃には収穫が終わり、子どもたちは川で水遊びも満喫しました。作業をご一緒したみなさんと、昼食をとりながら美味しい紫蘇ジュースの飲み方など話が弾みます。冬季は薪割り体験等の受け入れもされているそうなので、ぜひ足を運んでみてください。



★まちかどプロジェクトさん



お訪ねした日は午前中は習字の時間。手に硬直があったり麻痺があったりする方でも握りやすいよう工夫された筆があり、子どもたちもお気に入り。身近にあるもので、と手作りされた逸品で、まさにユニバーサルデザインでした。午後はボードゲームをしたり、車椅子試乗体験をしたり。がんばって自走している子もいました。大人たちは、6月に開催した商店街での車椅子を使ったまち歩き体験のことを振り返ったり、車椅子での旅のお話を聴いたり、話に花が咲きました。

図書案内

【シビックエコノミー 世界に学ぶ小さな経済のつくり方】

THE 00 PROJECT TEAM=著、石原薫=訳/株式会社フィルムアート社/2014

“シビックエコノミー”とは?「従来の明確に区別された市民社会、市場、政府の各部門からの革新的な方法を融合させる人、ベンチャー、行動からなる経済」(本書より)。イギリスを中心に、“新しいアイデアのためのオープンハウス”、“人をつなぐ商店街の再生”、“地域福祉のためのプラットフォーム”、“コミュニティ発電所”、“パブ兼ショップ兼図書館”、“公共空間に広がる菜園運動”、“ソーシャルベンチャースーパー”、など、25の具体例が収録されています。

あり、個人や企業、様々な主体が新しい共創を始めることで世の中を良くすることができる、という事例に触れることができます。この本にある様々な事例を私たちの暮らしに置き換えることで、日ごろの活動や業務のヒントになるのではないのでしょうか。あるいは、既に取り組み始めていることについて、“これもシビックエコノミーだ”と思われるかもしれません。スタイリッシュな本のデザインも、新しい何かを生み出すワクワク感を掻き立ててくれます。身近な経済やつながりを、ワクワクする新しい発想で見直してみませんか?



既存の枠組みでは様々な社会問題を解決できなくなっている。お金の問題を含め、抜本的な新しい発想が必要ではないか?そのようなことを誰もが感じる中、それは国境を越えた現象で